

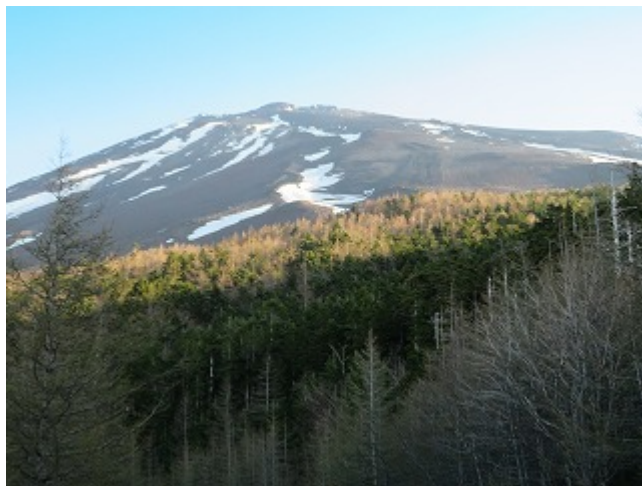
# 裾野麗峰山の会・山行報告書

文・KH 写真・GT

山行NO 山行NO. 1819  
日時 2019.05.26(日) 無風快晴高温  
山域 富士山(九合五勺まで・約3600m)  
コース 長泉5:30-富士宮・五合目発6:30-八合(小休憩)-九合五勺(大休憩)  
11:51~12:35-滑降-六合目上-歩き-五合目14:21  
標高差 上り 五合目約2380m~九合五勺約3600m=約1220m  
下り 九合五勺約3600m~約2600m=約1000m  
参加者 GT, KH

朝3時起床。富士山表登山道五合目駐車場に6時過ぎに到着。この時間で上の駐車場は既に満杯だった。山スキー、ボードを担いで登り始めている人もあれば、支度でワイワイと何と賑やかなこと。

上を仰げば、雪は辛うじて繋がって見えた。下の駐車場に車を止め、私たちもスキーの段取りをする。5月の連休以来1ヶ月振りで、ワクワクドキドキもんだ。兼用靴は重くて慣れないと身体にこたえる。更に板を担ぐとなると、重さがズッシリと肩にかかり、果たして何処まで登れるか・・・。



停めた車の横に富士山NO、の車があった。中年男性がいた。時間があつたので会話。スキーではなかった。「今日は歩きで二回やる」という。えええ～、實川さんみたい。實川さんとは懇意だそうだ。「昨日も会った」。ということは、昨日も上った！！富士宮のSさんだった。まあ、元気な方もいらっしゃる。ブル道から上る。直ぐガサガサで粒が大まかな雪が現れた。六合目から雪渓を避け夏道を上る。兼用靴で夏道は大変だが、眼に雪が入らないだけでも嬉しい。以前、この時期富士山に上って「雪目（雪盲）」になり、一週間大変な思いをした。トラウマになっている。

先を行った人達が雪の斜面を、牛歩の如く上っていた。段々と暑くなり登山道にも溶けた雪水が小さな川のように流れている。この日は北海道でも40度近い猛暑だったとか。足に重りが付いているかのように上りが辛く、8合目で大休止。小屋の屋根にあがり仰向けに寝転んで身体を休めた。空が真っ青で何処までも澄み切っている。こんな休み方は初めてだった。いいなあ・・・。相方も早朝日帰りは厳しそう。脈拍を計ったら120という。ギリギリの値だ。心臓も圧迫感があるという。腕もシビれているというが、これは重荷の影響だろう。しかし、油断は出来ない。



自然と一体になった気分のサイコーの瞬間でした。さあもうひと踏ん張りするかの掛け声で板を担ぎノロノロ、CLの後をついていく。九合五尺で今回は終了。万歳！！  
通常、というか登山の場合は当然、剣ヶ峰まで上る。しかし、今回はスキーで上は雪が切れてい

た。

ここで30分大休憩。小屋の屋根に寝転んで「宇宙」を仰いだ。深く蒼く大きな空だった。こんな空はココだけのものだ。

もう上から登山者がゾロゾロ下って来る。多くは「シリセード（雪上に座って尻で滑る）」で下る。雪渓に、その痕跡が大きく残っていた。



富士山は大きい



小屋の脇からウナギの寝床みたいな狭い雪筋から滑降。

雪はザラメ。斜面は土曜日に大勢の人達が楽しんだであろう痕跡があちこちにあり、真っ白い天使の一枚バーンとはいかなかった。

が、今の時期、まだ滑れるという事だけでも幸せだ。腰を落として快適に飛ばす。なかなかイイ・・・。



駿河湾に落ちていく

末端になるにつれ雪ががさついて、ごわごわ感があり板がすれる音ができる。雪の上も黒い溶岩の粉が「ふりかけ」のように付き、あまりヨロシクない。六合目下の際まで滑って終了。

今回は、六合下まで滑れた。近年では珍しかった。4月に降雪が多かったと思われた。スキーは、やっぱり雪が多くてなんぼだ。

ショートスキーで滑っていた方が、最後の所で転んで滑ってズボンを脱いでいたが、左側太腿が大きく擦り剥いていた。あれでは痛かろうと思った。駐車場まで直ぐなので心配なかろう。お声掛けをすると「歩ける。大丈夫」だったので激励して下った。



やっぱりスキーはサイコーだ～

新六合上まで歩き終了。いいスキーだった。

小屋の裏にも残雪があった。駐車場着。まだ、帰着していない方が多かった。今年の富士山も無



事終わった。

富士山の滑降は特別なモノがある。ここしか経験できないモノ。

特別な世界。雄大な自然美。そして厳しい試練・・・。

また、来年も上り滑れたらシアワセだ。

(了)